

日本橋オペラ特別公演

Opera Gala Concert オペラ・ガラ・コンサート

OSKAR HILLEBRANDT

Bariton (Kammersänger)

オスカー・ヒレブランド

バリトン（宮廷歌手）

SHOKO FUKUDA

Dramatic soprano

福田 祥子

ドラマティック・ソプラノ

PETER VALENTOVIC

Piano

ペーター・ヴァレントヴィッチ

ピアノ

2017年8月27日 日

14:00

日本橋劇場

主催：日本橋オペラ

共催：ディーヴァ（株）

プログラム／program

VERDI

ジュゼッペ・ヴェルディ／Giuseppe Verdi (1813 - 1901)

歌劇《オテロ》「俺は残忍な神を信じる」(イアーゴ)

Otello 《Vanne, la tua meta già vedo》(Iago)

歌劇《ドン・カルロ》「世の空しさを知る神」(エリザベッタ)

Don Carlo 《Tu che le vanita》(Elisabetta)

歌劇《ドン・カルロ》「ひとり寂しく眠ろう」(フィリッポ)

Don Carlo 《Ella giammai m'amo》(Filippo)

歌劇《イル・トロヴァトーレ》穏やかな夜 (レオノーラ)

Il Trovatore 《Tacea la notte placida》(Leonora)

歌劇《イル・トロヴァトーレ》

二重唱「私の願いを聞いてください」(レオノーラ & ルーナ伯爵)

Il Trovatore 《Udiste? Come albeggi》(Leonora, Conte)

WAGNER

リヒャルト・ワーグナー／Richard Wagner (1813 - 1883)

歌劇《タンホイザー》歌の殿堂のアリア (エリーザベト)

Tannhäuser - 《Dich, teure Halle》(Elisabeth)

歌劇《さまよえるオランダ人》オランダ人のモノローグ

Der Fliegende Holländer - Monolog - 《Die Frist ist um》(Holländer)

楽劇《トリスタンとイゾルデ》イゾルデの「愛の死」

Tristan und Isolde - Liebestod - 《Mild und leise》(Isolde)

楽劇《ワルキューレ》ヴォータンの告別

Die Walküre - Wotan's Abschied und Feuerzauber - 《Leb' wohl》

楽劇《神々の黄昏》ブリュンヒルデの自己犠牲 (最終場面)

Götterdämmerung - Schluss Szene - 《Fliegt heim, ihr Raben》(Brünnhilde)

オスカー・ヒッレブランド (バリトン) Oskar Hillebrandt (Bariton)



ドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク生まれ。鋭く、情熱的かつ繊細でエレガントな歌声と巧妙で自然な演技が、カラヤン、シノーポリ、サヴァリッシュ、アッパード、バレンボイム、ヴォルフガング・ヴァーグナー、ティーレマンをはじめとする多くの一流の指揮者、演出家に愛され、パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、グラインドボーン音楽祭、タオルミーナ音楽祭、スポレート音楽祭をはじめとする数多くの音楽祭、ウィーン、ミュンヘン、ベルリン、ハンブルグの各国立歌劇場やミラノスカラ座をはじめとするヨーロッパ各地は勿論、アメリカ、カナダ、日本など、世界各地で名声を上げる。そのレパートリーは、「ナブッコ」「マクベス」「シモン・ボッカネグラ」「ファルスタッフ」「ドン・カルロ」の各タイトルロール、「オテッロ」のヤーゴ、「トスカ」のスカルピア、「カルメン」のエスカミーリョ、「フィデリオ」のピッツァロ、「アラベラ」のマンドリーカ、「サロメ」のヨハナン、またワグナーにおいては、「ニーベルングの指輪」のヴォータン、アルベリヒ、「さまよえるオランダ人」のオランダ人、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」のハンス・ザックス、「ローエングリン」のテルラムント、「タンホイザー」のヴォルフラム、その他ワー

グナーのバリトン役は全て、しかも、それぞれの公演回数は殆どが百回を超える、まさにワグナーの為に産まれたような歌手。1988年ドイツ連邦共和国より「宮廷歌手」の称号を授与される。

現在も世界各地で活躍するとともに、後進の指導にも力を入れ、マスターコースを行っている。

福田 祥子 (ドラマティック・ソプラノ) Shoko Fukuda (Dramatic-Soprano)



兵庫県出身。大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。福田祥子は、まずワグナー歌手として注目された。2010年に出演した「ワルキューレ」ブリュンヒルデ役（あらかわパイロイト）は、『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』『日本では稀有な本格的ワグナー歌手の誕生』（音楽現代）と絶賛された。また、同年にリリースされたCD「イタリア・オペラアリア集」は『圧倒的な声量で深々と歌われる福田の歌…スケールは極大。日本人離れした長身のソプラノだけに、日本にも真に世界にも通用する本格的なオペラ歌手誕生か』と、音楽現代の推薦を受ける。さらに「ジークフリート」「神々の黄昏」それぞれブリュンヒルデ役、「トリスタンとイゾルデ」イゾルデ役、「さまよえるオランダ人」ゼンタ役、またイタリアオペラでは「蝶々夫人」「トゥーランドット」「イリス」「椿姫」「トスカ」のタイトルロールとして出演、いずれも高い評価を得ている。2012年からは、ウィーン国立歌劇場とバイエルン国立歌劇場で研修を受けている。2015年のシーズンからは、ブルガリア・スタラ・ザゴラ歌劇場、スロバキア・コシチェ歌劇場などで、「蝶々夫人」「トスカ」の

タイトルロールとして度々出演している。本年9月10日「ユージン・オネーギン」タチアナ役（新宿区民オペラ）、11月8日「トスカ」同名役（スタラ・ザゴラ歌劇場）、2018年4月「パリアッチ」ネッダ役（関西二期会）、2018年5月27日「イリス」同名役（日本橋オペラ）などの出演を予定している。日本橋オペラ代表。

ペーター・ヴァレントヴィッチ (ピアノ) Peter Valentovic (Piano)



1980年スロバキアに生まれる。幼少の頃よりピアノの特別な才能を示し、数々の国際的なピアノコンクールに入賞。奨学金を得て、ウィーン国立音楽大学とパリ高等音楽院で学ぶ。2000年、フィガロの結婚を指揮してウィーンでデビューをする。2003年から、パリ・オペラ・バ스티ーユ、シャトレ座などのコレペティトールをつとめとともに、ドイツ、南アフリカ、トルコ、チェコ、スウェーデンなどでも活躍する。レパートリーは、フィデリオ、さまよえるオランダ人、エレクトラ、サロメといったドイツオペラから、椿姫、アイダ、ナブッコ、蝶々夫人などのイタリアオペラ、また、ヤナーチェク、ドヴォルザークなどのスラブの作品、さらに、オーケストラや合唱の分野まで、広範囲に及ぶ。2012年から、ウィーン国立歌劇場の音楽総責任者をつとめると同時に、ブラチスラヴァ国立歌劇場、コシチェ州立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、プラハ国立歌劇場などの指揮者としても活躍する。さらに2013年からは、同郷の名歌手グルベローヴァの専属ピアニストとして、スカラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、プラハ国立歌劇場など、世界の大歌劇場に出演している。指揮者のピアノ伴奏が魅力的なことはよく知られているが、ペーター・ヴァレン

トヴィッチのピアノは、現代ではバレンボイムやレバインに匹敵する音楽性とテクニックで、世界中の耳の肥えたオペラファンを熱狂させている。福田祥子とは、蝶々夫人などで度々共演している。また昨年に引き続き、本年秋にもグルベローヴァの伴奏ピアニスト&指揮者として再来日を予定している。



パイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場等



指揮者 ヴァレントビッチ



コシチェ歌劇場 (スロバキア) 「蝶々夫人」



ヒッレブランド氏のマスターコース



グルベローヴァ リサイタルにて
ピアニスト ヴァレントビッチ



スタラ・ザゴラ歌劇場 (ブルガリア) 「蝶々夫人」



「神々の黄昏」(ブリュンヒルデ)